

論文の要旨

論文題目	PT に基づいたプロファイリング手順の構築 第二言語としての日本語習得の場合
氏名	PRESTON, Judith Lynn
学位	博士 (学術)
授与年月日	平成 2 0 年 9 月 3 0 日

本稿では、教育場面に利用可能な PT/JSLA におけるプロファイリング手順の構築過程を明らかにする。第 1 章では、PT の理論の要点を紹介する。日本語の PT の研究には興味があるが、Pienemann(1998)の説明をやや困難に感じる第二言語習得研究者にとっては、その理解の助けともなるよう、できるだけわかりやすく記述したつもりである。ただし、言語学および形態論・統語論に関わる用語等については、必要に応じて各種の参考文献を参照されたい。また、第 1 章の後半では、PT の標準的な研究方法として、出現基準 (emergence criteria) について説明する。また、出現基準に存在する階層 (implicational hierarchy) に関しては、第二言語習得に見られる文法発達の順序を確認するために、対象項目の出現に関する分布分析 (distributional analysis) の結果を段階階層表に適応する方法を紹介する。

第 2 章では PT/JSLA に関連した先行研究の結果を参考に、学習者の自発的な発話における文法項目の出現の順序を調べ、言語処理の観点からみてその発達パターンに関する考察をまとめる。先行研究の結果を考慮し、第 3 章では学習者の第二言語としての日本語の発達に見られる言語処理段階構造を紹介するために PT/JSLA のプロファイリング手順に使う対象項目及びその出現に関する分布分析方法の基準を提案する。さらに、プロファイリング手順の妥当性を調べるために、第 4 章では横断的な研究データに基づき学習者の発話に見られる対象項目の出現が第 3 章で述べる言語処理段階構造に従うかどうかを検証する。ここでは、日本語学習者 13 人の発話を細かく分析しながら日本語習得に関連した PT の理論的な特徴を考察し、学習者の発話データの分布分析の結果に基づいて PT/JSLA のプロファイリング手順で利用した言語処理段階階層の妥当性を検証する。

第 5 章では、日本語学習者の発話における対象項目の出現を抽出するためのタスクアクティビティーの作成方法を紹介し、エリシテーション手順の 2 つの予備調査を紹介する。スタディー1では、日本語学習者、バイリンガル、母語話者の発話データによって各タスクがどの程度学習者から対象項目に関する情報を引き出すことができるかというタスク効率の調査を行う。スタディー2では、予備調査で観察された学習者の態度とコメントを中心に、面接における実験バイアスの問題とその解消方法を述べる。最後に、結章では本論文全体の結果を要約し、PT/JSLA におけるプロファイリング手順の教育環境への応用付け足して、

今後の課題等を述べる。